

優秀賞

「相手を想う想像力」

八尾市立久宝寺中学校 三年 古賀^{こが} 文也^{ふみや}

「お前、キモイねん。」「バカやなあ。」

数人のクラスメイトから、そんなことを言われていた子がいた。小学生の頃、僕はそれを見ると、とても嫌な気持ちになったことを覚えている。その子は、そう言われるのを嫌がっていたし、あれは確かに「いじめ」だったと思う。でも、僕も周りの子も何もせず、ただ見て見ぬふりをしていた。「そんな大したことじゃない」と軽く考えていた面もあったと思うが、面倒なことに関わりたくない気持ちや、逆に自分がいじめられたらどうしようという気持ちもあったと思う。

「人権」ということを考えた時すぐに、このいじめのことが頭に浮かんた。自分にとっても嫌な思い出であり、思い出したくない気持ちもあった。でも、改めて考えてみると、「見て見ぬふり」をしていた自分は、いじめていた子と何も変わらないのではないかと思った。「見て見ぬふり」は、そこにある「いじめ」を無かったことにしてしまうのと同じなのかもしれない。現実から目を背けても、決していじめは無くなったりしないからだ。

もし自分が、いじめられていた立場だったらどうだろうか。自分を見て見ぬふりをしているクラスメイトは、どう見えるだろうか。自分がいじめられているのを知っているはずなのに、助けてくれない。いじめている子も他のクラスメイトもきっと同じに見えると思う。いや、むしろ知っているのに誰も助けてくれないことに深く傷つくのではないだろうか。誰も助けてくれないと一人で絶望し、人を信じられなくなったりするかもしれない。考えてみると、「見て見ぬふり」は直接ではないものの、一番人を傷つけてしまうのかもしれない。

僕たちは、いつも人と比べて生きている。そして、知らず知らずのうちに差別心を持ってしまったりするものだと思う。だから、差別してしまう弱い心と常に闘っていく必要があるのだと思う。差別してしまう心は、人を

傷つけてしまう刃であり、その刃は自分にも向いている。お互いに刃を向け合わないためには、相手を想いやる想像力こそが大事だと思う。

「人として一番恥ずかしいことは、感じるができないことである」という言葉を聞いたことがある。相手の気持ちになって考え感ずること、その想像力こそが、人として一番大切なことなのだと思う。だからこそ、想像力を持って、「見て見ぬふり」をしない勇気を持ちたいと思う。

世の中には、いじめだけでなく、障害者や高齢者、外国人などいろいろな人権問題があると習った。相手の立場に立って考えるためには、「知ること」はとても大切だと思う。どんな問題があるのかを知らなければ、分からないために人を傷つけてしまうことがあるかもしれない。でも、知らないからとはいえ、人を傷つけてしまえば、結果的には同じである。相手の立場や気持ちになって考えることは簡単にできることではないと思う。だからこそ「自分には関係ない」とは考えず、いろいろな差別問題について関心を持つことが大切なのだろう。

無関心は、「見て見ぬふり」と同じで、かつて僕がしていたように、いじめているのと同じなのだと思う。無関心は、起きているいじめを無いように見せ、さらに相手を傷つける。いろいろな差別について知り、それぞれの立場にある人の状況に関心を持ち、知ることが差別と向き合い、どう行動すべきかを考えるスタートなのだと思う。

差別と向き合うことは、面倒なことに関わりたくないという自分の弱さや、自分の中にある差別心と向き合う、しんどい面もあるのかもしれない。でも、いじめを見て感じていた嫌な気持ちから、一歩踏み出すことや、相手を思いやる気持ちや人としての優しさや強さを持つのだと思う。だから僕は、見て見ぬふりをするのではなく、きちんと現実を見つめ、人の気持ちが分かる想像力を持ちたい。